

教育研究研修センターだより



通巻 No.291

令和6年5月15日(水)発行

令和6年度を迎えるにあたり

第1回校長会 (令和6年4月16日開催)

三宅泰司 教育長挨拶

令和5年度末の人事異動により、小学校23名、中学校9名、計32名の新しい校長先生方をこの会にお迎えしたことを大変嬉しく思います。これまでのご経験をしっかりと生かしていただき、それぞれの学校において最高責任者としてご活躍くださいますようお願いいたします。

また、すでに校長としてご活躍いただいている先生方には、今年度新たにお迎えした先生方とともに、岡山市立学校の教育の充実のために、チームワークを大事にしながら、ご尽力を賜りたいと存じます。

さて、先日、新規採用者の辞令交付式を行い、小学校113名、中学校46名、義務教育学校1名、養護教諭5名、事務職員4名、栄養教諭1名、給食調理員1名、用務員1名の計172名に辞令が交付されました。現在、教職員の大量退職・大量採用の時代に入り、若手教職員の育成と経験豊かな教職員の指導技術等の伝承が急務となっています。校内で先輩が若手へ「技と思いの伝達」が行えるようなOJTを推進し、先輩と若手がともに学び合える職場となることを期待しています。

本日は、年度初めにあたっての私の思いや取り組んでいただきたいことについてお話しします。

【教育の方向性】

各学校におきまして、第2期教育大綱で目指す子どもの育成に向けた取組を進めていただき、感謝申し上げます。感染症対策により、思うように教育活動を展開できなかった時期もありますが、昨年度からは「やる気につながる好奇心の醸成」をキーワードに、改めて体験活動や他者と協働することの良さを実感できる学びづくりに取り組んでくださっていることと思います。

第2期教育大綱の取組は、今年度で4年目を迎え、令和7年度は、いよいよ最終年度になり、これまでの取組の総点検の年となります。現時点の達成状況は、全国平均レベル以上の学力や記述式問題の正答率については、目標値を達成している一方で、新規不登校児童生徒の出現率、探究的な学習をしていると感じる子ども、協力しようとする子ども、人を大切にできる子どもの割合については、目標値を達成しておりません。

昨年度の「総合教育会議」において、これら指標等に関する分析などから活発な意見交換がなされました。その結果、岡山市の子どもたちの良さとして、全国平均レベルの学力の維持、自己肯定感の高さ、全体的に落ち着いた生活ができていることなどが挙げられました。岡山市の子どもたちの課題解決のキーワードとして、①探究、②関わりやつながり、③主体性が挙げられ、学校生活において、この3つのキーワードの視点をもった教育活動が必要であるとの結論に至っています。各学校で教育課程を工夫されていると思いますが、改めて、3つのキーワードを意識した教育活動を展開してもらいたいと思います。

また、第1期教育大綱から取り組んでいる「校長先生を中心とした週2回以上の授業参観・指導助言」については、実施率100%を維持しています。しかし、全国学力・学習状況調査から、授業や学級経営等で問題を抱えている教員に対して、相談までに時間がかかっている割合が高いことが分かりました。今年度は、学校のチーム力を最大限に活かすために、スピード感をもった指導助言（バージョンアップ）をお願いしたいと思います。

教育委員会としては、学校の人的・物的支援、また学校運営への支援に向けた予算編成を行い、今年度の教育費は、前年度予算から102億円増加し、総額約586億円、率にして21%増もの予算をいただいています。主なものとしては、特別教室への空調整備や学校給食費の公会計化のための運営費などを計上しています。また、子どもたちの学びに直接関係するものとして、全校共通のデジタルAIドリルや授業支援ソフトを導入し、その活用のためにICT支援員を配置します。ICTを活用し、協働的な学びを充実させ、「子どもが夢中になる授業」を展開していくことで、基礎学力の定着や主体性の向上を期待しています。その結果として、無解答率の改善を目指します。

【人権教育について】

教育の基盤は、人権尊重が徹底している環境です。子どもたち一人一人が、大切にされていることを実感しながら生活し、自分とともに他者を大切にできる力を育むことができるよう、今年度も引き続き、教育活動全体を通じて人権尊重の精神に立った学習活動、人間関係づくり、教育環境づくりに取り組んでいただきたいと思います。

【学力向上及びGIGAスクール構想の推進について】

昨年度、岡山市立すべての学校で、「授業これだけは！+PLUS」に基づき、他者との関わりを通して、自分の考えを広げ深める学習を充実させることと学びの過程を振り返る場面を設定することで、子どもたちの「やる気につな

がる好奇心」を醸成する授業づくりを推進していただきました。

今年度は、新たに導入する「ミライシード」を積極的に活用し、課題を立てて情報を集め整理するなど、自己の主体性を発揮するとともに、友達とつながりながら、自分の考えを表現することができる力を付けられるような授業づくりをお願いいたします。また、その活用に向け、ICT支援員が授業提案を含め、先生方を支援します。このような取組を積み重ねることで、「子どもが夢中になる授業」が展開され、記述式問題の正答率全国平均レベル以上と無解答率の全国平均レベル以下を目指していただきたいと思います。教育委員会としても、できる限りの支援をまいります。

【生徒指導等について】

今年度から1人1台端末を活用した「心の健康観察」を全校で実施します。この取組は、教職員が児童生徒のメンタルヘルスの悪化や小さなSOSなどを察知できるようにすることをねらいとしています。迅速な情報共有により、早期支援、早期対応を行うことで、新規不登校の抑制を図り、社会的自立に向けた支援につなげていけるものと考えております。

また、特別支援教育については、「岡山市立小・中・義務教育学校における特別支援教育推進グランドデザイン」で示しているように、「インクルーシブ教育システム」の構築を目指します。「障害のある子どもと、障害のない子どもが、できる限り同じ場で共に学ぶ」という考え方を全ての教職員に浸透させて、各学校においても引き続き、特別支援教育の視点での温かい対応を推進していただきたいと思います。

【夜間中学について】

令和7年4月に、岡山後楽館中学校に夜間学級、いわゆる「夜間中学」を開設します。夜間中学は、義務教育を修了できなかった方や、不登校などの事情により義務教育が十分に受けられないまま中学校を卒業した方などを対象として、義務教育を受ける機会を確保するために設けるものです。開設まで1年を切りました。

今年度は6月末に授業体験会、7月から9月にかけて入学説明会を実施し、10月より生徒募集を始めます。

広く市民の方へ周知を行い、学び直したいという方に夜間中学が開設されることが届くよう広報にも努めます。昨年度末には、各学校にポスターとチラシを送らせていただきました。先生方にも改めて夜間中学への理解を深めていただきたいと思います。

【働き方改革について】

「岡山市立学校園における働き方改革推進方針」については、令和5年3月に策定し、先日もメディアに取り上げられたところです。推進方針4本の柱に基づいて取組を進め、ワークライフバランスの充実を図ることにより、教育の質の向上を図っていくこととしております。

校長先生方には、管理職として働き方改革について様々な議論をリードしていただくことが大切ですが、仕事のやり方としては、野球型ではなくサッカー型でお願いしたいと考えます。時間を決めて仕事をする、帰る時間を意識することで、仕事の進め方や意識も少しずつ変えていけるものと考えます。

また、教員の負担軽減のため令和6年度から「学校給食費の公会計化」を実施しています。これまで、学校給食費は、教員が、給食費の算定、収納や未納対応、納入業者への支払等を行っており、業務の負担となっていました。こうした状況を改善するため、学校給食費を各学校単位の会計ではなく、教育委員会が保護者から直接徴収し、支払いまでを一元的に管理するように制度を改めることで、教員が子どもと向き合う時間を確保できると考えています。

今後の進め方として、ワークとライフの両方の充実が大切だと考えています。働きがい、やりがいも含め仕事の取り組み方も見直す必要が出てきているように思います。

校長先生方には、学校園運営協議会等でも、チャンスを狙って、働き方改革について話題に出していただきたいと思います。働き方改革を進めること、また、PRしていくことが、教育の質の向上や人材確保につながると考えていますので、引き続きよろしく申し上げます。

【服務規律の徹底について】

岡山市では、昨年度、盗撮やわいせつ行為等の不祥事が3件発生しました。この3年間、懲戒処分等の事案が立て続けに発生していることに強い危機感を感じています。

各学校園におかれましては、引き続き、教職員が自分ごととして捉えることができる研修となるよう、様々な工夫をしていただきながら不祥事防止の研修や指導を重ね、教育公務員としての自覚の高揚を図るよう、改めてお願いいたします。特に、教職員の働きがい・やりがいの部分にもご配慮いただきながら、職場の同僚性を高め、上司、同僚間のコミュニケーションの充実を図り、お互いが相談し、支え合い、一人で抱え込むことのないよう、風通しのよい職場をつくり、所属の教職員に一層のご助言やご指導をいただければと思います。

【おわりに】

今後とも、校長先生方にはお力を遺憾なく発揮され、存分にご活躍くださいますことを期待しております。一方で、校長先生方のお仕事は激務でございます。くれぐれも健康には十分ご留意いただきますようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

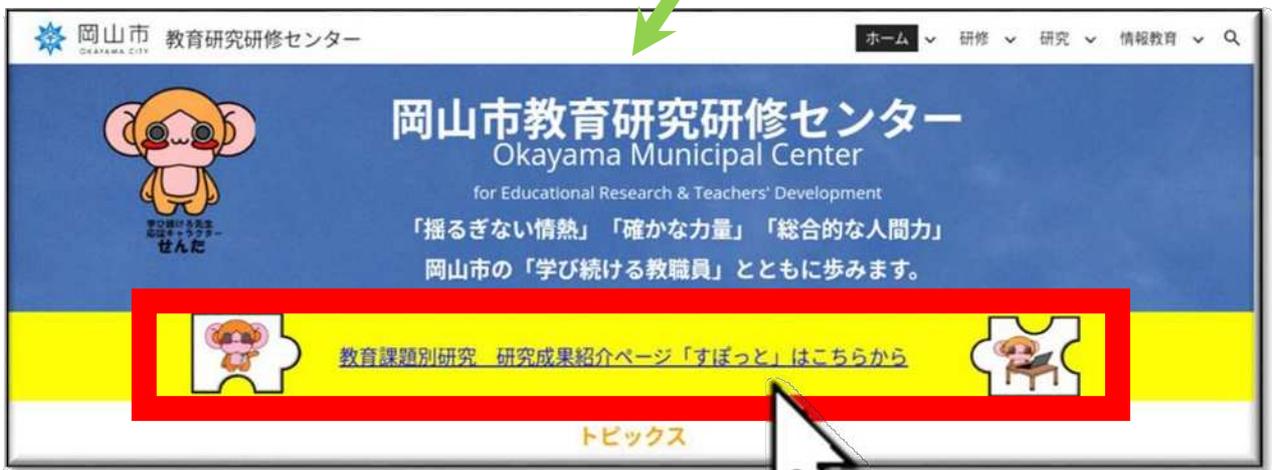
教育課題別研究 研究成果紹介ページ「すぽっと」ができました!!

研究成果紹介ページ「すぽっと」には、令和4・5年度教育課題別研究に関わる研究成果をまとめています。「ICTを効果的に活用した授業づくりの実現」に向けて、学び続ける先生方を応援するページです。

先生方が授業づくりのとき、なかなか埋まらないパズルのピースが「すぽっと」埋まる一助としてください。研究成果紹介ページ「すぽっと」は、教育研究研修センターのHPに掲載しています。ぜひご活用ください。



🔍 検索 岡山市教育研究研修センター



ここをクリック!!

★★掲載内容★★

授業づくり

ICT活用のポイント

授業実践事例集



ICT活用のポイント	アイコン	特徴・価値
【視覚化】 (見る)		動画や写真、イラスト等を提示することが可能 (例) ・遠隔の教材や資料、作業の過程の動画を提示 ・表・グラフ、図等を提示、読み・書き込み
【効率化】 (早く)		継続の情報共有、作業の経験知識が蓄積 (例) ・動画やPPTソフト等の作成の際における画像や動画の挿入 ・アンケートの実施・集計・表示
【保存】 (残す)		学習過程、自分の考え等を残すことが容易 (例) ・ふりかえりを記録して保存 ・実証や観察・実験の様子を保存
【共有】 (一緒に)		資料やワークシート等を共有、共同編集が可能 (例) ・複数人で同時に制作、別々の場所・時間にも同時可能 ・他のクラスの子どもとの作品共有も可能
【試行錯誤】 (何度も)		試みと失敗を繰り返すことが容易に可能 (例) ・実験を繰り返して、検証した結果を比較・検討 ・作文や動画等の作成



☆学習指導案作成の解説☆

☆ICTの特性・強みを紹介☆

☆小中計21事例を紹介☆

その他にも多くのコンテンツを掲載しています。

研究の概要

「すぽっと」の活用例

校内におけるICT活用の推進

健康への配慮

情報モラル教育

オンデマンド動画・映像資料

岡山市教育研究研修センターは学び続ける先生を応援します!!